

2013年度版

環境活動レポート



(休耕田に栽培した菜の花畑から吉備国際大学を望む)

吉備国際大学

2014年12月

(対象期間:2013年4月~2014年3月)



吉備国際大学
KIBI International University

【目次】

1. 吉備国際大学の概要	1
1-1. 事業の概要	1
1-2. 建学の理念	2
1-3. 沿革	2
1-4. 組織	3
2. 環境方針	4
3. 吉備国際大学環境マネジメントシステム	5
3-1. EA21取り組み対象範囲	5
3-2. EA21取り組み組織	5
4. 環境目標と実績	6
4-1. 2013年度環境目標と目標達成状況	6
4-2. 環境負荷の経年変化	7-8
5. 環境活動計画と取り組み結果の評価	9
5-1. 目標達成のための具体的活動(2013)	9
5-2. 環境目標の達成手段と取り組み状況の評価	10
6. 環境関連教育の状況	11
6-1. 全学環境関連科目の開講	11
6-2. 環境関連科目の一部紹介	11
6-3. 心理学部こども発達教育学科「里山総合演習」	12
7. 取り組みの様子	13
7-1. 部局別環境目標の設定	13
7-2. 内部環境監査	13
7-3. EA21活動啓発ポスター	14
7-4. 分別ごみ箱の設置と適切なごみ分別	14
7-5. EA21学生委員会の取り組み	15
7-6. 地域清掃(女子サッカー部による活動)	16
7-7. そのほかの活動	16
8. 環境関連法規の遵守と違反状況, 訴訟等の有無	17
9. 環境代表者による全体評価と見直しの記録	18

1. 吉備国際大学の概要

1-1. 事業の概要

事業所名: 学校法人順正学園 吉備国際大学

代表者: 松本 皓

事業内容: 教育研究機関

所在地: 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8

総括環境管理責任者: 濱島 敦博 (国際環境経営学部 環境経営学科 講師) 及び担当者

TEL: 0866-22-9205 E-mail: hamashi@kiui.ac.jp

事業の規模

※通信の学部生・院生を含まない

	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
教員数	人	153	154	148	155
非常勤講師数	人	264	143	152	143
職員数	人	66	62	55	65
学部生数 ※	人	2,233	2,012	1,880	1,862
大学院生数 ※	人	88	89	90	78
総人数	人	2,804	2,460	2,325	2,303
敷地面積	m ²	189,513	189,513	189,513	258,362
延べ床面積	m ²	33,857	33,857	33,857	46,279

キャンパスマップ



1-2. 建学の理念

学校法人 高梁学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

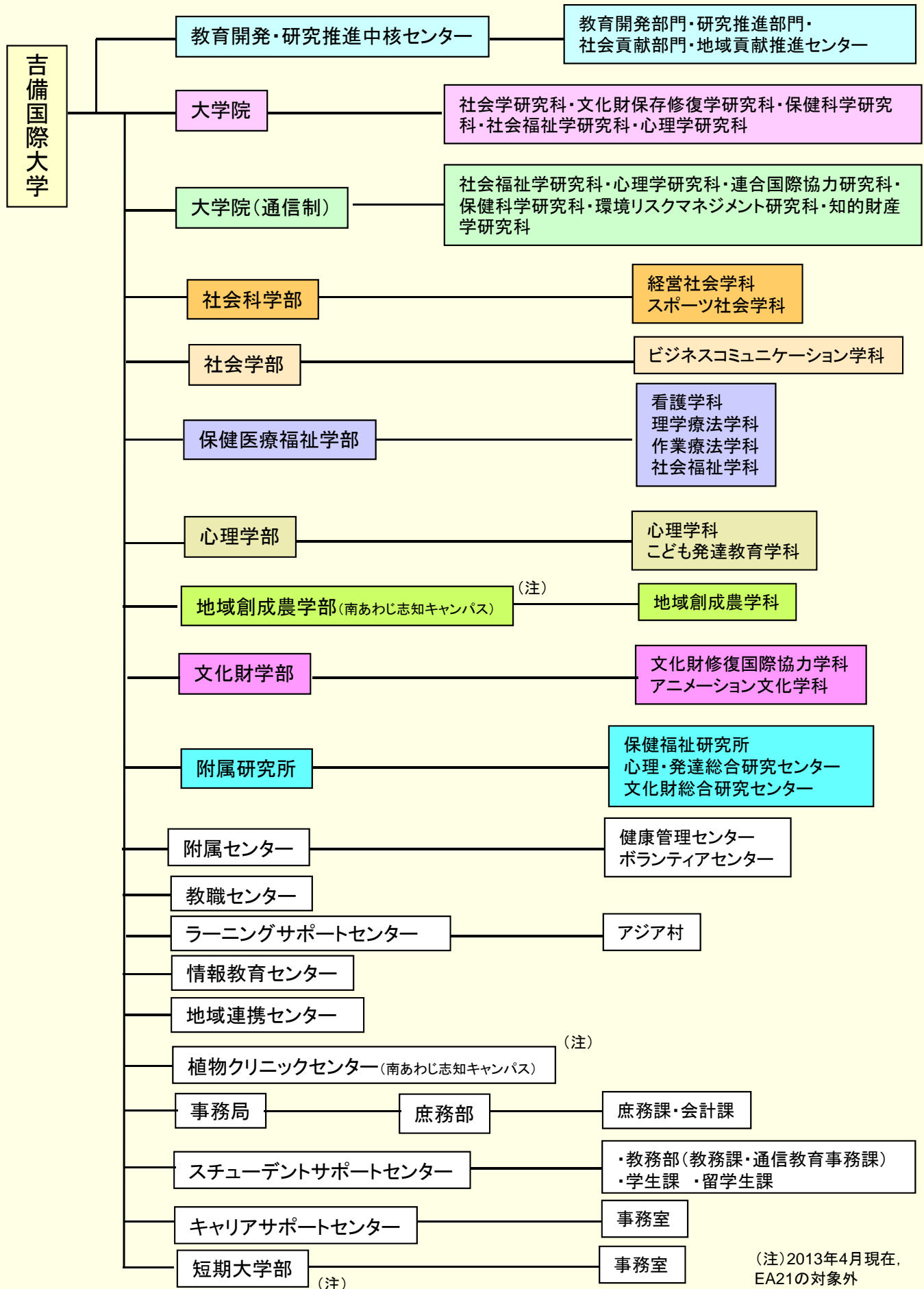
Mission Statement

Our aim is to maximize students' individual potential and develop good citizens in both local and international communities.

1-3. 沿革

昭和42年(1967)	文部大臣より学校法人高梁学園の設置を認可される
平成元年(1989)	文部大臣より吉備国際大学の設置を認可される
平成2年(1990)	吉備国際大学社会学部を開設
平成7年(1995)	保健科学部, 社会福祉学部を増設
平成7年(1995)	大学院 社会学研究科 社会学専攻 修士課程を開設
平成9年(1997)	大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士(後期)課程を開設
平成11年(1999)	大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程を開設
平成12年(2000)	大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 修士課程を開設
平成13年(2001)	大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士(後期)課程を開設
平成14年(2002)	大学院(通信制)社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程を開設
平成16年(2004)	大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程を開設 政策マネジメント学部を増設
平成17年(2005)	大学院 文化財保存修復学研究科 文化財保存修復学専攻 修士課程を開設 大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 博士(後期)課程を開設
平成18年(2006)	大学院 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 博士(後期)課程を開設 大学院(通信制) 臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 博士(後期)課程を開設 大学院(通信制) 国際協力研究科 国際協力専攻 修士課程を開設
平成20年(2008)	(通信制)保健科学研究科 理学療法学専攻 修士課程(通信制) 環境リスクマネジメント研究科 環境リスクマネジメント専攻 修士課程・(通信制) 知的財産学研究科 知的財産学専攻 修士課程を開設 国際環境経営学部 環境経営学科として開設
平成22年(2010)	「高梁学園吉備国際大学」から「順正学園吉備国際大学」へと改称 文化財学部アニメーション文化学科及び短期大学部を開設 大学院心理学研究科心理学専攻修士課程を開設
平成25年(2013)	地域創成農学部を増設 (南あわじキャンパス) 社会科学部経営社会学科を開設

1-4. 組織



(注)2013年4月現在、EA21の対象外

2. 環境方針

吉備国際大学環境方針

基本理念

吉備国際大学は、「日本人としてのメンタリティと国際人としてのセンスを兼ね備え、豊かな人間性と専門性を有する、社会に有為な個性ある人材を養成する」ことを教育目標として掲げています。この教育理念を踏まえ、教育・研究、地域貢献、国際交流などの活動において、環境との調和と共生を図るとともに、地球環境に配慮して行動することができる人材の育成を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本方針

1. 教育・研究活動及びそれに付随する活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルの推進、化学物質の削減、グリーン購入の推進に努めます。
2. 環境マネジメントシステムを確立し、教職員及び学生の環境意識を啓発するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直し、その継続的な改善を図ります。
3. 大学の教育活動を通じ、学生の環境意識の醸成に努め、地球環境に配慮して行動できる人材の育成に努めます。
4. 学内の教育・研究活動においては、環境関連の法令、条例及び協定を遵守します。
5. この環境方針を達成するため、目標を設定し、学内の教職員、学生及び常駐する委託会社の職員が一致協力してその達成を図ります。
6. この環境方針は、学内の教職員、学生及び常駐する委託会社の職員に周知するとともに、広く一般にも公開します。

2012年 4月 1日

吉備国際大学学長 松本 皓

3. 吉備国際大学環境マネジメントシステム

3-1. 吉備国際大学のEA21対象範囲

1)所在地

〒716-8508

岡山県高梁市伊賀町8

2)対象サイト

吉備国際大学(吉備国際大学1号館～15号館, 吉備国際大学附属施設)

3)活動と対象者

(1)活動

①教育 ②研究 ③オフィス活動 ④学生の活動

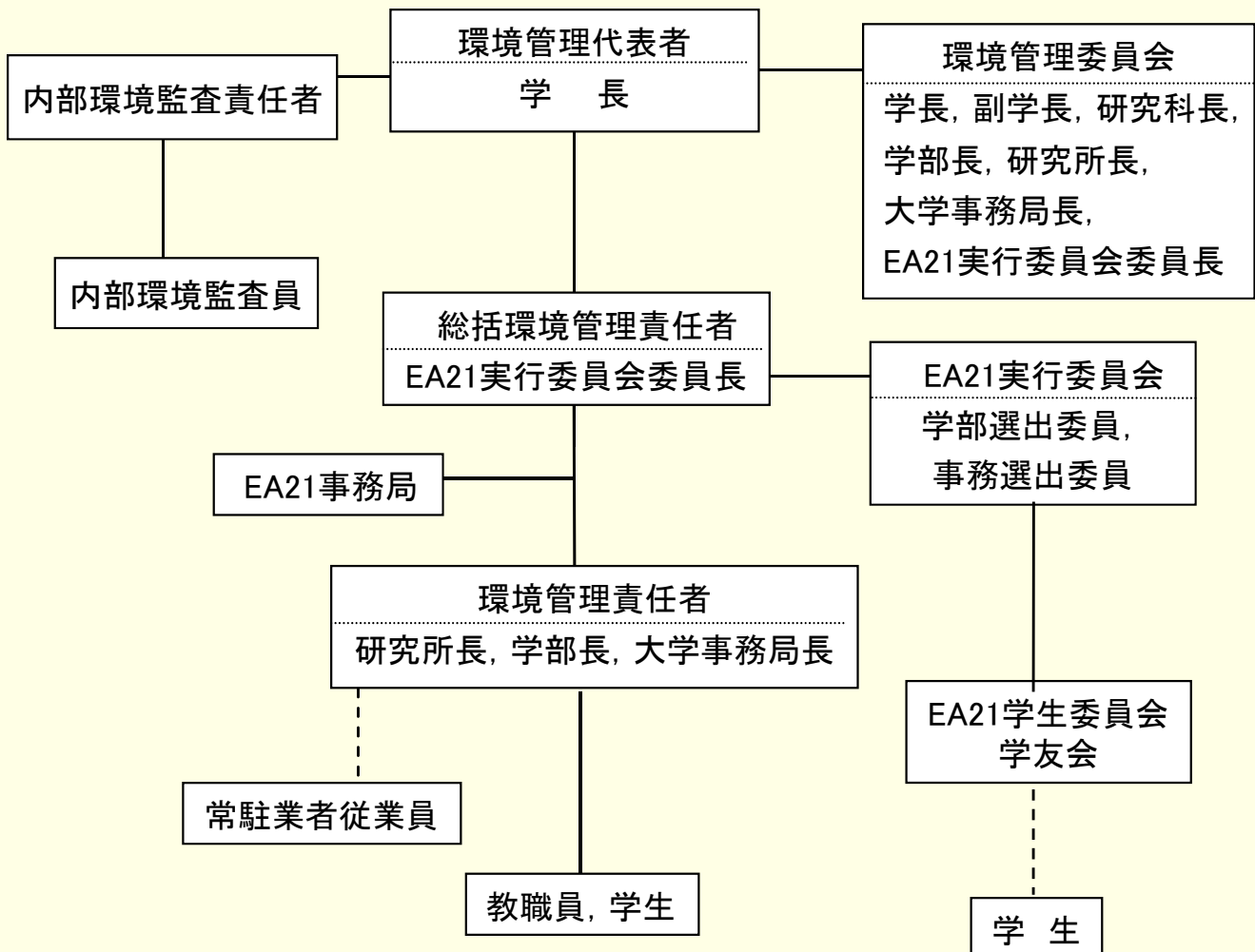
(2)対象者

①教員 ②事務職員

(3)準構成員

①学生 ②常駐業者従業員

3-2. EA21取り組み組織



4. 環境目標と実績

4-1. 2013年度環境目標と目標達成状況

吉備国際大学では、エコアクション21の取り組みにおいて、「電力消費の削減、化石燃料消費の削減、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物発生量の削減、水使用量の削減、印刷用紙使用量の削減、化学物質の適正管理、グリーン購入の推進、環境教育の推進、大学周辺の環境美化の推進」の10項目に関する環境目標を定めて、全学的に活動をしています。

2013年度はエコアクション21認証の最後の年となったため、これまでの成果を整理しました。下記に、2013年度の目標及び2013年度の実績値、単年度目標および中長期目標(2012～2014年度)に対する実績評価をまとめています。全体的に、目標を達成することができました。

環境目標	基準年度 実績	2013年度目標「目標値」	2013年度 実績値	2013年度 目標評価
		中長期目標「目標値」 (2012～2014年度まで)		中長期 目標評価
電力消費の削減	2007年度 2,952,737kwh	2,834,627 kwh 基準年比-4%	2,705,401 kwh 基準年比-8.4%	○
		2,805,100 kwh 基準年比-5%		○
化石燃料消費の削減	2007年度 6,769,687MJ	6,498,899 MJ 基準年比-4%	5,194,568 MJ 基準年比-23.3%	○
		6,431,203 MJ 基準年比-5%		○
二酸化炭素排出量の削減	2007年度 2,098,312 kg- CO ₂	2,014,379 kg-CO ₂ 基準年比-4%	1,853,766kg-CO ₂ 基準年比-11.7%	○
		1,993,396 kg-CO ₂ 基準年比-5%		○
廃棄物発生量の削減	2009年度 54,879kg	53,781 kg 基準年比-2%	49,970 kg 基準年比-8.9%	○
		53,233 kg 基準年比-3%		○
水使用量の削減	2007年度 16,842 m ³	16,168 m ³ 基準年比-4%	14,520 m ³ 基準年比-13.8%	○
		16,000 m ³ 基準年比-5%		○
印刷用紙使用量の削減	2007年度 3,904,000 枚	3,747,840 枚 基準年比-4%	2,551,000枚 基準年比-34.7%	○
		3,708,800 枚 基準年比-5%		○
化学物質の適正管理	—	対象物質の保有量把握と管理強化	対象物質の保有量を各部署が記録、保管	○ —
グリーン購入の推進	—	特定品目のグリーン購入比率 70%以上	文具4品目の購入で グリーン購入比率 91.0 %	○ —
環境教育の推進	—	年1科目以上の全学共通 環境教育科目の開講	全学共通環境科目を 開催	○ —
大学周辺の環境美化	—	月1回以上の環境美化活動	サークル、体育部会等が 大学周辺のゴミ拾いを実施	○ —

注1) 「二酸化炭素排出量」における、電力消費による排出係数については、その値を「0.555」とした。

二酸化炭素排出量は電力消費量と化石燃料(灯油・ガス)消費量より算出した。

注2) 評価の判定 「○:達成できた」、「△:ほぼ達成できた」、「×:達成できず」

4-2. 環境負荷の経年変化（EA21認証期間最終年度の評価）

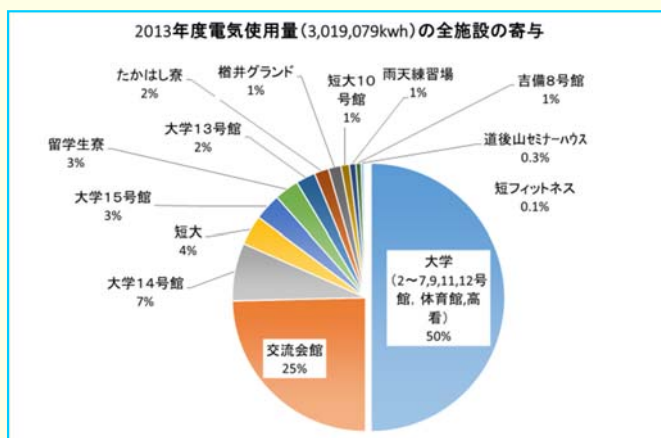
(1) 電力使用量の経年変化

2008年度に増加したが、2009年度以降は少しずつ減少し、2013年度実績の基準年度比(2007年度)は91.6%であった。EA21認証期間中に8.4%年の削減がみられ、中長期目標(-5%)を達成した。



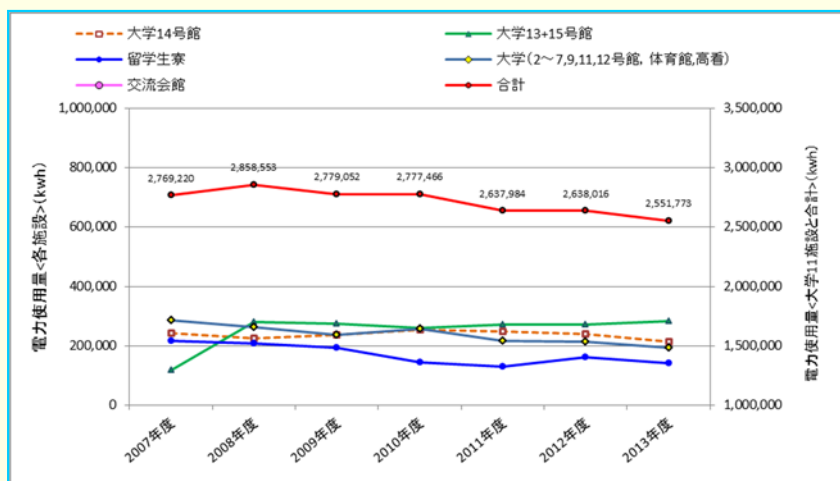
建屋別の寄与割合

大学(11施設)50%, 交流会館25%, 14号館7%が大きく、全体の82%を占める。電力削減を図るには、寄与の大きい施設について取組の強化が必要である。



建物別使用量の経年変化

寄与割合の大きい建物別に、7年間の使用量の推移を示した。合計使用量は徐々に減少している中で、大学13+15号館の使用量には変化が見られていない。電力削減を図るには、この施設の取り組みを更に図る必要がある。



(2) 化石燃料(灯油・ガス)の経年変化

2009年~2010年度に大幅増加したが、2011年度以降は改善傾向を示して減少した。2013年度実績の基準年度比(2007年度)は76.7%で、EA21認証期間中に24.3%の大幅削減がみられ、中長期目標(-5%)を達成した。



(3) 二酸化炭素排出量の経年変化

2009年から2010年度にかけて増加したが、その後は継続的に減少し、2013年度実績の基準年度比(2007年度)は88.3%であった。EA21認証期間中に11.7%の良好な削減を示して中長期目標(-5%)を達成した。



4-2. 環境負荷の経年変化 (つづき)

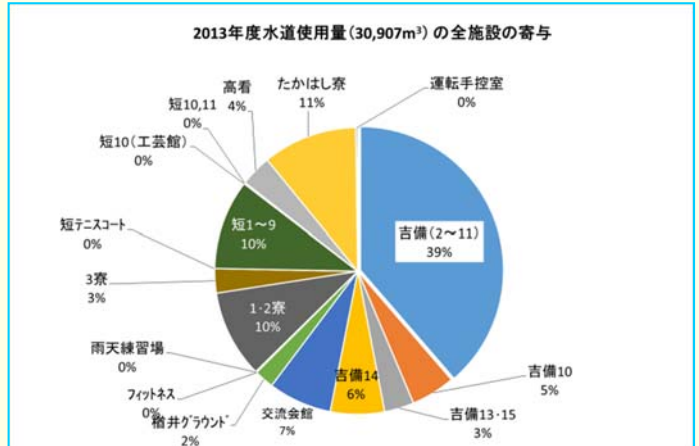
(4) 水使用量の経年変化

2010年度に急増し基準年度(2007年度)を上回ったが、2011年度以降は増減しながら下回った。2013年度実績の基準年度比(2007年度)は86.2%である。EA21認証期間中に13.8%と良好に削減を示して中長期目標(-5%)を達成した。



建屋別の寄与割合

高等看護学校施設を除き、大学2-11館39%、短大1-9号館10%、交流会館7%、14号館6%の順に割合が高い。割合の大きい施設の削減に取り組みが必要である。



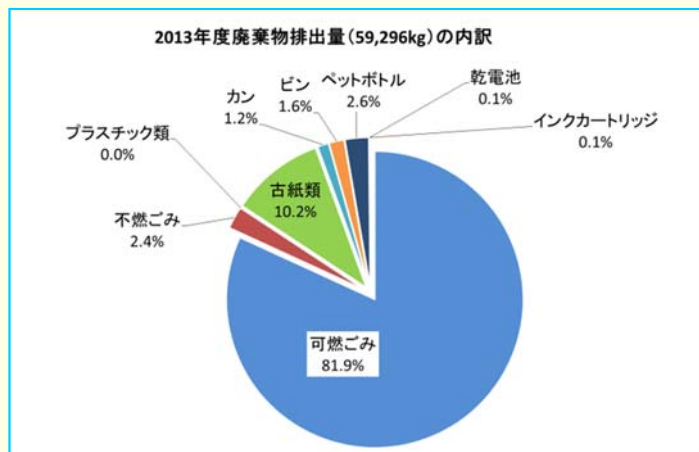
(5) 廃棄物発生量の経年変化

2009年度より計測を開始した。増減をしながら減少し、2013年度の実績の基準年度比(2009年度)は91.1%であった。EA21認証期間中に8.9%削減し中長期目標(-3%)を達成した。



ごみ分類別の寄与割合

大学の排出物全体に占める可燃ごみの割合は81.9%で圧倒的に大きい。ごみ削減を進めるためには、可燃ごみの内容を精査して、次年度の取り組みに反映する必要がある。



(6) 印刷用紙購入量の経年変化

基準年度(2007年度)から2012年度まで順調に減少したが、2013年度は増加に転じた。2013年度実績の基準年度比(2007年度)は65.3%である。EA21認証期間中34.7%の大幅削減が見られ、中長期目標(-5%)を達成した。



排出物全体の資源ごみリサイクル率:年々低下し、16%になった。

年度	2009	2010	2011	2012	2013	
ゴミ発生量(kg)	可燃ごみ	52,130	49,840	52,185	46,890	48,535
	不燃ごみ	2,749	2,198	1,696	1,009	1,435
	可燃不燃ごみの合計	54,879	52,038	53,881	47,899	49,970
リサイクル品(kg)	プラスチック類	0	0	0	0	0
	古紙類	11,942	12,616	9,698	5,290	6,030
	缶	1,020	863	849	633	714
	ビン	950	893	919	975	969
	ペットボトル	1,716	1,362	1,211	1,333	1,525
	乾電池	48	20	45	35	34
	インクカートリッジ	20	19	45	25	56
	リサイクル品合計	15,696	15,773	12,768	8,291	9,326
廃棄物全体(kg)	総排出量	70,575	67,811	66,649	56,190	59,296
参考	リサイクル率 (%)	22	23	19	15	16

5. 環境活動計画と取り組み結果の評価

5-1. 目標達成のための具体的活動 (2013年度)

吉備国際大学では、10項目の環境目標について、それぞれ具体的な目標達成手段を決め、目標達成に向けて取り組みを行っています。さらに、それぞれの目標達成手段には、具体的活動内容を定めて活動を行っています。

環境目標	目標達成手段	目標達成のための具体的活動
1) 電力消費の削減	①不在時の電気使用の防止	①スイッチ部分への消灯ステッカーの貼り付け
		②授業後教室の消灯の徹底を呼びかけ通達
		③不在時パソコンスイッチ切断の呼びかけ通達
		④パソコンへの節電ステッカーの貼り付け
		⑤消灯パトロールの実施
②無駄な電気使用の防止	①エアコン設定温度の省エネ設定掲示(冷房27°C, 暖房20°C)	
	②集中制御エアコンの運転時間管理の徹底	
	③階段使用の推奨ステッカーの貼り付け	
	④日中不要時の消灯, ブラインドの有効利用の呼びかけ	
	⑤省エネ機器の導入	
③省エネ機器の導入	①機器更新時における省エネ型機器の導入を検討	
	②建物改装時等における人感知スイッチの導入を検討	
	④節電の呼びかけ	
	⑤クールビズ, ウォームビズの推進	
	①電気使用量の現状通知	
2) 化石燃料消費の削減	①無駄な化石燃料使用の防止	①エアコン設定温度の省エネ設定掲示(冷房27°C, 暖房20°C)
	②通勤, 通学時の公共交通機関の利用の促進	②給湯使用削減の呼びかけ
	③省エネルギー活動の推進	①ガルーン配信と掲示による呼びかけ
	④外部からの持ち込み量削減	①電力使用量の削減, 化石燃料使用量削減活動に準じる
	⑤伝達手段のペーパーレス化	②ガルーン配信と掲示による呼びかけ
3) 二酸化炭素排出量の削減	①省エネルギー活動の推進	①廃棄物分別回収システム, 計量システムの構築
	②リサイクルの推進	①分別の呼びかけ通達
	③外部からの持ち込み量削減	②分別不徹底の見回り写真撮影による啓発
	④弁当ごみの削減	③不要紙リサイクルの推進(収集方法の一元化)
	⑤印刷用紙使用量の削減	④ごみ箱の適正配置
4) 廃棄物管理及びごみの減量	①廃棄物管理システムの構築	⑤プリンタインク, トナーの回収ボックスの設置
	②リサイクルの推進	①ごみ持ち込み禁止文書の配布
	③外部からの持ち込み量削減	②ごみ減量ポスターの掲示
	④弁当ごみの削減	①食堂利用の呼びかけ
	⑤印刷用紙使用量の削減	①無駄防止ステッカーの貼り付け
5) 水使用量の削減	①無駄な水使用の防止	②トイレ用擬音装置の設置の検討
	②節水の呼びかけ	①水使用量の現状通知
	③環境授業の開講	①両面印刷の活用(印刷室に張り紙)
	④EMS研修の実施	②無駄な用紙使用防止ステッカーの貼り付け
	⑤伝達手段のペーパーレス化	③授業配付資料の厳選の通知
6) 印刷用紙使用量の削減	①無駄な用紙使用の防止	④会議資料の削減
	②伝達手段のペーパーレス化	⑤使用済み封筒を学内便として繰り返し使用の通知
	③外部からの持ち込み量削減	①ガルーン利用の促進
	④弁当ごみの削減	②電子会議の推進
	⑤印刷用紙使用量の削減	①種類・使用量・保管量・使用方法の把握と記録
7) 化学物質の適正管理	①物質保有量・使用量の把握	①有害性化学物質の表示・保管等の管理の徹底
	②管理強化	②安全な取扱の教育・訓練
	③環境授業の開講	③委託業者への説明会の開催
	④EMS研修の実施	①学生オリエンテーション時に説明
	⑤伝達手段のペーパーレス化	②教職員への説明
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講	③委託業者への説明会の開催
	②EMS研修の実施	①該当製品購入の呼びかけ
	③環境授業の開講	①環境美化デーの設定と教職員・学生による清掃活動
	④EMS研修の実施	②ゼミ, サークルなどによる自主的清掃活動
	⑤伝達手段のペーパーレス化	①喫煙マナーの呼びかけと掲示
9) グリーン購入の推進	①備品購入時における該当製品の購入	②喫煙指導の実施
	②管理強化	
	③環境授業の開講	
	④EMS研修の実施	
	⑤伝達手段のペーパーレス化	
10) 大学周辺の環境美化	①環境美化	
	②吸い殻対策	
	③環境授業の開講	
	④EMS研修の実施	
	⑤伝達手段のペーパーレス化	

5-2. 環境目標の達成手段と取り組み状況の評価

ここでは、2013年4月から2014年3月にかけて取り組んだ活動の評価結果をまとめました。概ね、取り組みは達成されましたが、活動の呼びかけや記録による未確認の項目が認められました。次年度は、これらの活動について、取り組みの強化を図っていく必要があります。

2013年度環境目標	目標達成手段	取り組みの達成度
1) 電力消費の削減 2007年度比 -3%	①不在時の電気使用の防止	◎
	②無駄な電気使用の防止	◎
	③省エネ機器の導入	△
	④節電の呼びかけ	◎
	⑤クールビズ、ウォームビズの推進	◎
2) 化石燃料消費の削減 2007年度比 -3%	①無駄な化石燃料使用の防止	◎
	②通勤、通学時の公共交通機関の利用の促進	○
3) 二酸化炭素排出量の削減 2007年度比 -3%	①省エネルギー活動の推進	◎
4) 廃棄物管理及びごみの減量 2009年度比 -1%	①廃棄物管理システムの構築	◎
	②リサイクルの推進	○
	③外部からの持ち込み量削減	△
	④弁当ごみの削減	×
5) 水使用量の削減 2007年度比 -3%	①無駄な水使用の防止	○
	②節水の呼びかけ	○
6) 印刷用紙使用量の削減 2008年度比 -3%	①無駄な用紙使用の防止	○
	②伝達手段のペーパーレス化	△
7) 化学物質の適正管理	①物質保有量・使用量の把握	○
	②管理強化	△
8) 環境教育の推進	①環境授業の開講	○
	②EMS研修の実施	○
9) グリーン購入の推進 購入比率70%以上	①備品購入時における該当製品の購入	◎
10) 大学周辺の環境美化 年1回以上の環境美化活動	①環境美化	◎
	②吸い殻対策	△

取り組み状況の評価基準

◎:達成している項目 ○:概ね達成できた項目 △:一部達成できた項目 ×:達成できなかった項目

6. 環境関連教育の状況

6-1. 全学環境関連科目の開講（シラバス紹介）

吉備国際大学では、大学の環境方針に沿い、環境に配慮して行動できる人材の育成を目指しています。2012年度からは全学共通基礎科目として、「環境科学」及び「生命と環境」が開講されており、全学的に環境理解教育が実施されています。ここでは、「環境科学」のシラバスを紹介しました。

授業科目名	環境科学	担当者	科目担当教員
年次	1	履修期	2012年度 春学期
テーマと到達目標	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。		
概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では先ず生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義では問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて行い、その対策について考えていく。		
評価方法	授業態度と定期試験により評価		
履修条件・注意事項	スライド等の映像を中心に講義を進めるのでプリント空欄への記入及びノートメモを取ること。スライド等の映像を中心に講義を進めるのでプリント空欄への記入及びノートメモを取ること。学習項目の予習と授業後の復習をすることで理解が深まる。		
春学期授業 計画	1. 環境と人間のかかわりあい	秋学期授業 計画	
	2. 環境における人類の危機要因		
	3. 生態系と人間		
	4. 食物連鎖		
	5. 物質循環		
	6. オゾン層の破壊（原因、影響）		
	7. オゾン層の破壊（対策）		
	8. 皮膚と環境（構造と機能）		
	9. 紫外線（分類と作用）		
	10. 地球温暖化（原因）		
	11. 地球温暖化（影響）		
	12. 地球温暖化（対策）		
	13. その他の地球環境問題（酸性雨）		
	14. その他の地球環境問題（SPM）		
	15. その他の地球環境問題（現状と対策）		

6-2. 環境関連科目の一部紹介

春学期

医療系の生命と環境 環境科学 消費・環境論 水質環境論 資源と環境 環境ビジネス論
環境マネジメントシステム論 生命と環境 アジア環境論 情報環境 環境経済学
文化財と環境 文化財保存環境科学Ⅰ 文化財保存環境学特論 環境リスク概論 環境会計論

秋学期

環境倫理学 大気環境論 自然環境保全論 土壌環境論 地球環境科学 環境アセスメント論
環境経営概論 環境教育論 環境政策論 生命と環境 環境リスクと企業経営リスク 環境法
生活環境学 国際環境論 文化財保存環境科学Ⅱ 文化財環境管理学特論 保育指導法(環境)

6-3. 心理学部子ども発達教育学科『里山総合演習』の紹介

子ども発達教育学科で実施されている「里山総合演習」は、大学周辺の環境を生かした本学独自の授業です。学生たちはこうした活動を通して、子どもの心情に寄り添い、楽しく活動ができるよう導き、援助するための留意点を理解できます。

子ども発達教育学科では、年間を通して里山での様々な体験学習に加えて、子どもたちと触れ合う体験を実施し、野外保育の指導・援助技術を体験する学習の機会を作っています。こうした体験学習を実施することで、いろいろな環境に対応できる優れた保育者、子育てのスペシャリストを養成しています。

カリキュラムは、1, 2年次(必修)3, 4年次(選択)で、「里山総合演習Ⅰ～Ⅷ」の8科目です。

自然観察, 里山整備, 野菜およびきのこの栽培, 炭焼き, 薪作りなど, 活動から環境を通じた地域の暮らしを知り, 未来の社会のあり方を考えるプログラムです。

5月21日(火)、心理学部子ども発達教育学科2年生27人と、高梁市市立高梁幼稚園の園児26人が、吉備国際大学10号館裏の畑で、イチゴ狩りを行い交流しました。

7月9日(火)、吉備国際大学心理学部子ども発達教育学科の学生たちが、高梁キャンパス近くにある高梁市立高梁幼稚園の園児たちを招いて、一緒にサツマイモ畑の草取りを行い交流を深めました。



— 里山総合演習の実施内容 —

- ★畑作業…… 植えつけたための土壌作り, イチゴ・サツマイモなどの植えつけ, 草取り, 収穫
- ★野外遊び…… こども広場の整備, キャンプ学習, 山作業, 山登り, 芋煮会, 自然観察

7. 取り組みの様子

7-1. 部局別環境目標の設定

2013年度は、環境目標の達成に向けて、下記のように4学部1局が独自に環境目標を設定し、取り組みを行いました。目標に対する活動計画として、「いつ、誰が、どのように」行うのか、明確にしました。

学部局	項目	環境目標
社会科学部	目標1	「教員及び学生に対して環境負荷削減目標及び方法について周知徹底を行う」
	目標2	「2・9・14号館の電気使用量を昨年度比で1%削減する」
	目標3	「地域と連携した環境保全活動を推進する」
保健医療福祉学部	目標1	「教員及び学生に対して環境マネジメント委員会活動の更なる周知徹底と活動協力要請を行う」
	目標2	「使用する教室や各教員研究室等の電気使用量を昨年度比で1%削減する」
	目標3	「化学物質の適正管理と特別管理産業廃棄物の適正管理を徹底する」
心理学部	目標1	「教員及び学生に対するEA21システムの周知徹底を行い、省資源、省エネルギー、ゴミの所定場所への廃棄に取り組む」
	目標2	「10号館の電気使用量を昨年度に比較して1.8%削減する」
	目標3	「環境保全活動を推進する」
文化財学部	目標1	「教員及び学生に対してEA21システムの周知徹底を行う」
	目標2	「省エネ推進三箇条に努める」
	目標3	「学科環境目標を設定し推進する」
事務局	目標1	「電力、水道、化石燃料の使用量削減を重点的に行う。」
	目標2	「会議のペーパーレス化を推進する。」
	目標3	「環境に配慮した学友会活動を促す。」

7-2. 内部監査の実施













EA21ガイドラインでは、事業規模100人以上の事業体に対し、要求事項として内部環境監査の実施を明記しています。そこで、「EA21ガイドライン」に基づき、本学における環境経営システムの運用状況を監査しました。監査は、内部環境監査実施手順書に沿って行われ、各部局の定めた部局別環境目標に対し、取り組みが適切に実施されているか、その記録が保管されているか等を監査しました。

監査の結果は下表に示すとおりであり、各部局とも、概ね計画通りに取り組みが実施されていました。

実施期間 2013年12月11日 ～ 2013年12月19日	目標1		目標2		目標3	
	取り組み状況	記録の有無	取り組み状況	記録の有無	取り組み状況	記録の有無
社会学部	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○
保健医療福祉学部	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○
国際環境経営学部	概ね計画通りに取り組みが行われている	△	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	△
心理学部	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○
文化財学部	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○
事務局	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○	概ね計画通りに取り組みが行われている	○

7-3. EA21活動啓発ポスター

エコアクション21活動を行うに当たり、学内各所(階段、廊下、エレベータ、講義室、教員研究室、印刷室、各事務室等)に啓発ポスターを掲示して、学内への周知を図っています。これまでに掲示したポスターは「吉備国際大学環境方針」、「室内温度設定の遵守」、「節水」、「紙の節約」、「ゴミ減量」、「ゴミ分別」、「節電」、「エレベーター利用の削減」、「喫煙マナー」、「PC利用節電」、「コピー機の主電源OFF」、「レジ袋削減」等です。

<p>講義室の節電・節水等</p> <p>手洗いの節水、照明の消灯、エアコンの適正温度設定のポスター</p> 	<p>エレベータのエコ利用</p> <p>環境に優しいエレベーター利用の呼びかけポスター</p> 	<p>トイレの節電</p> <p>トイレの照明節電呼びかけポスター</p> 	<p>トイレの節水</p> <p>トイレ内の節水呼びかけポスター</p> 
<p>環境方針の掲示</p> <p>階段の途中やホールなどに、環境方針の掲示のポスター</p> 	<p>コピー用紙の節約</p> <p>学内設置の学生用コピー機の上に、紙の節約、節電の掲示ポスター</p> 	<p>学内の消灯</p> <p>廊下、階段付近の消灯呼びかけポスター</p> 	<p>レジ袋削減</p> <p>コンビニに掲示しているレジ袋削減の呼びかけポスター</p> 
<p>PC節電</p> <p>研究室における不要時のPC節電の掲示ポスター</p> 	<p>トイレでの喫煙禁止</p> <p>トイレ入り口の喫煙禁止のポスター 中国語・韓国語で併記したもの</p> 	<p>喫煙マナー</p> <p>日本人、留学生に合わせた、日本語(右)、韓国語・中国語(左)での掲示ポスター</p> 	<p>ゴミの減量</p> <p>ゴミ箱付近でゴミ削減の呼びかけポスター</p> 

7-4. 分別ごみ箱の設置と適切なゴミ分別

吉備国際大学では、高梁市のごみ分別に合わせて、ごみを6種類に分別しています。カン、ビン、ペットボトルは同じごみ箱に投入し、収集後に分別してリサイクルに回しています。キャンパス各所のゴミ箱の上には、ごみ分別表が貼ってあります(右図)。そのほか、古新聞・古雑誌などの古紙類及び乾電池やインクカートリッジも別途収集してリサイクルしています。



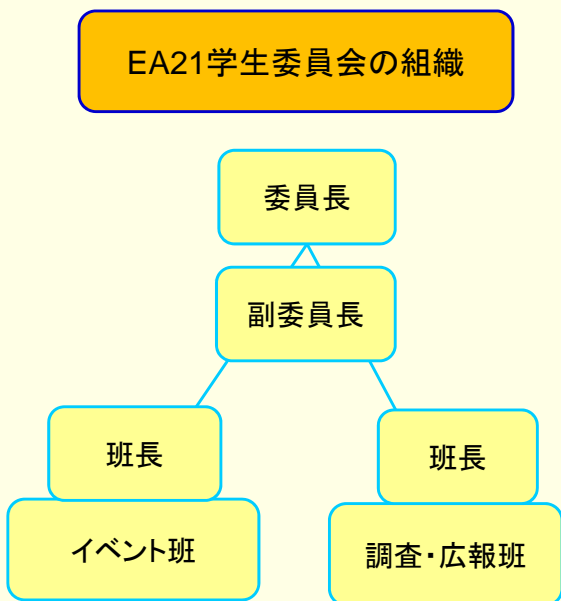
分別種類	ごみの種類	注意事項
廃棄物	可燃ごみ	紙くず類、食品ごみ、本類、木くず類、ビデオテープ、CD、汚れたプラスチック
廃棄物	不燃ごみ	金属類、割れたビン、陶磁器、ライター、刃物、汚れた缶、汚れたビン
資源物	カン・ビン	アルミ缶、スチール缶、スプレー缶(必ず穴をあける)、菓子缶、缶詰缶、コーヒー缶、飲料ビン、調味料のビン
資源物	ペットボトル	コーヒービン、ペットボトル
資源物	プラスチック類	きれいなプラスチック類のみ、レジ袋、ポリ袋類、菓子袋、トレイ、発泡スチロール容器、ペットボトルのフタ
その他	古新聞・古雑誌 段ボール	古新聞、古雑誌、段ボール、その他不要な紙 ひもで十文字にしばり、指定の集積場所へ
その他	乾電池・蛍光管 インクカートリッジ	乾電池 → 事務室設置の乾電池入れへ インクカートリッジ → 事務室設置の回収ボックスへ 蛍光管 → 指定の集積場所へ

★ごみになるものを買わない、大学に持ち込まないを徹底しましょう。
★ごみは必ず分別して、ごみ箱に投入して下さい。

7-5. EA21学生委員会の取り組み

吉備国際大学のEA21取り組み組織には、EA21学生委員会(通称:エコマネージャークラブ)が設置されており、学生委員会のメンバーを中心として、エコアクション活動に自主的に取り組んでいます。EA21学生委員会は、EA21学生委員長の下で2つの班に分かれており、それぞれが重要な役割を担っています。また、今後の取り組みや役割分担などを話し合うために、月に一度、定例会を開催しています。学生が行っている主な活動には、下表の日常的に行っている活動とエコ啓発のイベント活動があります。

(1)EA21学生委員会の組織



◆学内のゴミ残量調査

月に一度、大学の講義室を回り、残されたゴミを収集し、計量・記録します。

◆館内放送による環境活動の呼びかけ

週に一度、館内放送でエコアクション活動への協力を呼びかけています。エアコンの適正な温度設定やエレベータ使用の自粛など、改善のお願いも放送します。イベントの案内など、季節や時期に合わせて行っています。

◆使用済みの乾電池・印刷インクカートリッジ・トナーの回収

学内の庶務・教務などの部署に、使用済みの乾電池や印刷インクカートリッジの回収ボックスを設置しています。定期的に回収し、計量・記録した後、リサイクルのための引き取りを業者をお願いします。2014年から、岡山と南あわじキャンパスでも開始しました。

◆プルタブ、ボトルキャップの回収

伊賀祭実行委員会と協力して、エコ活動の一貫として、プルタブとボトルキャップを回収しています。プルタブは「160万個＝アルミ製車椅子1台」として交換できます。ボトルキャップはプラスチック製で作られているので様々なものにリサイクルされます。また、「400個＝ワクチン一人分」と交換できるため回収をしています。

(2)ごみ残量調査

毎月、講義室に残っているごみを回収して、ごみの種類別に重量を計測しています(右表)。2013年度は11.51kgのごみが講義室に放置されました。月による残渣の違いはありましたが、年間のごみ量全体では前年度と変化がありませんでした。



(単位:kg)		2012年度	2013年度	前年度比較
4月	燃えるゴミ	1.45	1.47	0.02
	プラスチック	0.32	0.52	0.2
	ペット・缶	0.46	0.4	-0.06
5月	燃えるゴミ	1.38	1.18	-0.2
	プラスチック	1	0.24	-0.76
	ペット・缶	0.38	0.85	0.47
6月	燃えるゴミ	1.4	1.08	-0.32
	プラスチック	0.32	0.27	-0.05
	ペット・缶	0.61	0.59	-0.02
7月	燃えるゴミ	1.7		
	プラスチック	1		
	ペット・缶	0.5		
10月	燃えるゴミ	1.1	1.7	0.6
	プラスチック	0.4	0.34	-0.1
	ペット・缶	0.5	1.05	0.6
11月	燃えるゴミ	0.92	0.8	-0.1
	プラスチック	0.34	0.45	0.1
	ペット・缶	1.06	0.57	-0.5
1月	燃えるゴミ		1.08	
	プラスチック		0.27	
	ペット・缶		0.59	
年間計	燃えるゴミ	6.25	6.23	-0.02
	プラスチック	2.38	1.82	-0.56
	ペット・缶	3.01	3.46	0.45
	合計	11.64	11.51	-0.13

(3)リサイクル活動



(4)館内エコ放送



(5)キャンドルナイトの実施

大学の食堂から出た廃油で作成した手製ロウソクを灯し、照明を落としてひと時を過ごす、キャンドルナイトを年に2回実施しています。夏(秋)には、市内の高梁城南高校、高梁高校、高梁日新高校との共同開催をしています。地元の方や撮影を楽しみにしている多くの人が見に来ています。冬には、学内のクリスマスイルミネーションで、多数の参加者の足下をキャンドルが照らし、幸せな雰囲気を醸し出しています。

★10月4日のキャンドルナイト：晩秋の高梁市内紺屋川沿いには、美しく清い明かりが川面を照らし出しました。



★クリスマスイルミネーション：冬時の日が落ちるとライブ演奏の足下を照らし、キャンドルのマークKIU(大学のマーク)が階段を飾りました。

7-6. 地域清掃(女子サッカー一部による活動)

女子サッカー部の「FC吉備国際大学Charme」は、アダプトおかも推進事業の一環で、地域の清掃活動に取り組んでいます。選手たちは順正学園ボランティアセンターで借りた火ばしやゴミ袋、シダぼうきを持って、まだ冷たい水が流れる紺屋川に長靴を履いて降り、空き缶や落ち葉、ビニール袋などのゴミを熱心に拾っていました。2回に分けて実施し、高梁幼稚園前から学園橋にかけての紺屋川を清掃しました。吉備女子大学女子サッカー部は、月に1度、大学周辺の美化活動に取り組んでいます([charmeHPに紹介](#))。



Charme (シャルム)の選手メンバーら約20人は、3月5日(水)10:00~12:00の2時間、大学高梁キャンパス近くを流れる紺屋川の、清掃ボランティア活動に汗を流しました。



掃除をしているときに地域の人から声をかけていただくこともあり、そうした地域とのふれあいが励みになっているとか。ごみ回収を終えて一段落でした。

7-7. その他の活動

吉備国際大学では、学内ウェブシステムを構築し、メールやウェブ上の掲示板を利用して情報を共有しています。これにより、用紙の使用量が削減できると共に、各種連絡がタイムリーに提供されています。エコアクション21関係では、文部科学省等外部からの環境配慮活動についての依頼を掲示板に掲載したり、省エネルギー推進やゴミ分別・減量の依頼、環境教育研修の依頼などもメールや掲示板を通じて行いました。

8. 環境関連法規の遵守と違反状況，訴訟等の有無

本学に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果，違反はありませんでした。また，関係機関からの指導，利害関係者からの訴訟もありませんでした。

「法規等の遵守状況の確認及び評価の結果」

区分	法規制等の名称	該当する要求事項	判定
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物の許可業者への委託	合
		事業系一般廃棄物の許可業者への委託	合
		特別管理産業廃棄物の許可業者への委託	合
	家電リサイクル法	家電等廃棄時に再商品化をする者に引き渡す	合
	資源有用利用促進法 (PCRリサイクル法)	再資源化に努めること	合
	建設工事に係る資材の 再資源化等に関する法律	再資源化に努めること	合
排水	下水道法	水量，水質の変更時	合
		特定施設(教育・研究施設の洗浄施設)の設置の届け出	合
		特定施設の構造を変更した場合の届け出	合
		異常排水の排出への対応	合
化学物質	化学物質排出把握管理 促進(PRTR)法	PRTR対象物質を所定の規模以上取り扱っている場合	評価対象外
	毒物及び劇物取締法	研究のため特定毒物を使用する場合には，許可が必要	評価対象外
		盗難防止の措置	合
		飛散，漏洩，滲出，流出の防止の措置	合
		保管場所への毒劇物の表示	合
	フロン回収・破壊法	エアコンなどの修理，廃棄時	合
エネルギー	エネルギーの使用の合理化に 関する法律(省エネ法)	エネルギー管理統括者の選解任届け	合
		毎年度7月末までに中長期計画及び提起報告書の届出。	合
		床面積2千m ² 以上(第1種特定建築物)又は床面積3百m ² 以上(第2種特定建築物)の建物の新築，改築，増築時がある場合，省エネ措置等の適用を受ける	合
		計画・実施状況の公表	合
温室効果ガス	地球温暖化対策の推進に 関する法律(温対法)	毎年度7月末までに報告。	合
		計画・実施状況の公表	合
グリーン購入	国等による環境物品等の 調達に関する法律	環境物品等の調達方針	合

9. 環境代表者による全体評価と見直しの記録

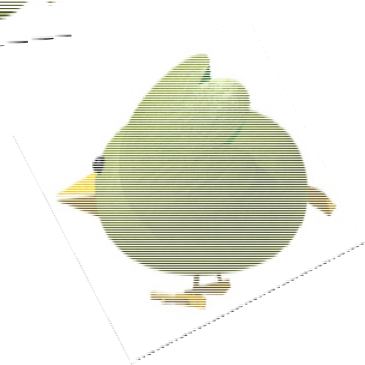
				代表者	総括 環境管理 責任者																																														
代表者による全体の評価と見直し (適切性、妥当性、有効性の評価)				(定期見直し：毎年事業年度終了後) 実施日：2014年7月6日	松本皓 小田淳子																																														
見直しに必要な情報				変更の必要性の有無・指示事項																																															
(管理責任者の報告)		(管理責任者のコメント・提案)		(代表者)																																															
【取り組み状況の評価結果】 環境目標のうち、負荷削減目標(電力消費、化石燃料消費、二酸化炭素排出量、廃棄物、水、印刷用紙)は、単年度目標及び中長期目標(2014年度)のいずれも達成できており、特に化石燃料と印刷用紙使用量は大幅な削減を達成した。取り組み目標のうち、グリーン購入は目標を達成したが、環境教育の推進、大学周辺の環境美化、化学物質管理は、全学の教育記録の未収集、内部監査の未実施などにより記録等からの確認はできなかった。実施の状況は委員会報告により一部確認された。				【環境方針】 ・環境方針は掲示等により学内に浸透しており、変更の必要なしと判断する。																																															
【問題点の是正処置及び予防処置の状況】 2014年度よりEA21外部審査をはずれたため、活動計画の取り組みが全学的に十分には確認されなかった。取り組みを推進するうえで、記録管理の徹底と内部環境監査の実施体制を再構築する必要がある。				【環境方針】 変更の必要はない。																																															
【前回までの代表者の指示事項】 2012年の指示事項及び対応はない。				変更の必要性： 有 <input checked="" type="radio"/> 無																																															
【目標・環境活動計画の達成状況】 (詳細は環境活動計画書による)				【目標・環境活動計画】 ・中長期目標および2013年度の環境目標を達成し、ほぼ順調にシステムが運用されているが、環境負荷データの収集対象施設に不適切な範囲が認められた。活動のキャンパスがさらに2学部へ拡大する時期を迎えるため、活動の適用範囲を見直す必要がある。 ・環境目標は高梁キャンパスの全実績データが出そろった4月以降に適用施設を見直し、2013年度データを基準年として、新たに環境目標と中長期目標を策定する。 EMSを導入する南あわじと岡山の施設は4年間のデータ収集に努め、目標設定はしない。 ・古紙回収のうち雑紙が可燃ゴミ扱いとなっている現状を改善する(資源化の検討)。 ・外部審査を終了するため、取り組みを把握する手段として内部環境監査の適切な実施を図るものとする。																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>目標値</th> <th>環境活動の</th> <th rowspan="2">コメント</th> </tr> <tr> <th>達成状況</th> <th>取り組み状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力使用量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素排出量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化石燃料の削減</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>大幅に削減(-23.3%)</td> </tr> <tr> <td>廃棄物の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水使用量の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>印刷用紙使用量の削減</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>大幅に削減(-27.4%)</td> </tr> <tr> <td>化学物質の適正管理</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>管理強化の不足</td> </tr> <tr> <td>グリーン購入の推進</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>大幅に推進(91%)</td> </tr> <tr> <td>環境教育の推進</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>環境講演会の未開催</td> </tr> <tr> <td>大学周辺の環境美化</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>吸い殻対策の未実施</td> </tr> </tbody> </table>				目標項目	目標値	環境活動の	コメント	達成状況	取り組み状況	電力使用量の削減	○	○		二酸化炭素排出量の削減	○	○		化石燃料の削減	◎	○	大幅に削減(-23.3%)	廃棄物の削減	○	○		水使用量の削減	○	○		印刷用紙使用量の削減	◎	○	大幅に削減(-27.4%)	化学物質の適正管理	○	△	管理強化の不足	グリーン購入の推進	○	○	大幅に推進(91%)	環境教育の推進	○	△	環境講演会の未開催	大学周辺の環境美化	○	△	吸い殻対策の未実施	【目標・活動計画】 ・EA21認証取得の終了(5月)を受けて、今後は本学独自の環境活動の体制に移行する。吉備国際大学の環境マネジメントシステムとして、運用と取り組みを図りたい。 ・南あわじ、岡山キャンパスは学生及び教職員に対する環境活動の周知と取り組みを進めてほしい。 また、環境負荷データの把握(特に、廃棄物の分別方式の徹底と重量測定)に務められたい。	
目標項目	目標値	環境活動の	コメント																																																
	達成状況	取り組み状況																																																	
電力使用量の削減	○	○																																																	
二酸化炭素排出量の削減	○	○																																																	
化石燃料の削減	◎	○	大幅に削減(-23.3%)																																																
廃棄物の削減	○	○																																																	
水使用量の削減	○	○																																																	
印刷用紙使用量の削減	◎	○	大幅に削減(-27.4%)																																																
化学物質の適正管理	○	△	管理強化の不足																																																
グリーン購入の推進	○	○	大幅に推進(91%)																																																
環境教育の推進	○	△	環境講演会の未開催																																																
大学周辺の環境美化	○	△	吸い殻対策の未実施																																																
○達成できた(取り組んだ) △一部達成できた(一部取り組んだ) ×達成できていない(取り組んでいない)				変更の必要性： <input checked="" type="radio"/> 有 無																																															
【周囲の変化の状況】 ①2013年4月に地域創成農学部が南あわじキャンパス開設され、2014年4月に外国語学部が開設される予定である。現時点で、環境マネジメントシステム(EMS)の導入はなされていない。 ②環境マネジメント活動の対象範囲を全学に拡大していく必要がある。				【その他の環境経営システムの各要素】 ・新たに開設の2学部について、環境経営システムの導入を図る必要がある。 ・5月末でEA21認証取得が終了の予定。 ・学部再編が行われるため、環境経営システムの文言の見直しや組織の変更等に対応が必要である。																																															
				【環境経営システムの各要素】 ・環境経営システムを見直し、改訂の必要がある。																																															
				変更の必要性： <input checked="" type="radio"/> 有 無																																															

吉備国際大学
環境活動レポート 2013年度版

2014年12月1日 発行

編集：環境マネジメント委員長：小田 淳子
（社会科学部経営社会学科 教授）
E-mail oda618@kiui.ac.jp
TEL&FAX 0866-22-9387

発行：吉備国際大学 環境マネジメント委員会
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
TEL 0866-22-9454(代表)



高梁キャンパス

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
TEL.0866-22-9454(代表)



岡山キャンパス

〒700-0931 岡山県岡山市北区奥田西町5-5
TEL.086-207-2911(代表)



南あわじ志知キャンパス

〒656-0484 兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1
TEL.0799-42-4700(代表)



吉備国際大学
Kibi International University